平成30年度　学力向上を図るための全体計画

墨田区立中川小学校

教　育　目　標
○よく考え、進んで学習する子 ○思いやりの気持ちをもち、仲良くする子 ○からだをきたえ、ねばり強く努力する子（重点目標）

１ 平成３０年度墨田区学力調査の結果から

国語

○「国語への関心・意欲・態度」の観点では、全学年、全国の平均正答率を上回っている。特に２年が 11 ポイント、４年が 8.2 ポイント、５年が 9.4 ポイント、６年が 7.5 ポイントと大きく上回っている。

○「書く力」については、全国平均正答率を２年 11.1 ポイント、３年 4.6 ポイント、４年 10 ポイント、５年 13.2 ポイント、６年 11.9 ポイントと全学年大きく上回る結果となった。

○「話す力・聞く力」の観点では、２年で 10.7 ポイント、３年で 3.9 ポイント、４年で 8.3 ポイント、５年で 4.4 ポイント、６年で 4.1 ポイント全国平均正答率を上回った。

▼「言語についての知識・理解・技能」の観点では、６年で 1.4 ポイント下回った。

言葉の特徴や使い方について、毎日の授業の中で、文章の構成を捉えさせたり内容の要約をさせたりする活動を取り入れ、「言語についての知識・理解・技能」を高めていく。理解したり表現したりするために必要な文字や語句については、辞書や辞典を利用して調べる活動を取り入れ指導していく。各学年、言葉の意味や漢字の読み書き、語句と語句との関係、接続語や指示語など文章をつなげる言葉について「ふりかえりシート」を活用し、確実に定着できるようにする。

「書く力」に関しては、作文・文法の「ふりかえりシート」を活用する。また、学校行事や読書指導と関連させて、作文や感想文、意見文など書く学習を引き続き積極的に取り入れていく。相手や目的に応じて書く内容を考えたり文章全体の構成や展開を考えたりする指導を充実させることで表現力を高めていく。

社会

○４年では全観点で、目標値・全国の平均正答率を上回った。特に「社会的な思考・判断・表現」「社会事象についての知識・理解」で、全国の平均正答率をそれぞれ 4.2 ポイント、6.6 ポイント上回った。

○５年では「社会事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」が全国の平均正答率よりそれぞれ 10.5、11.9、10.4 ポイントと大きく上回っている。

▼６年では、「社会的事象への関心・意欲・態度」は、全国平均正答率を 10 ポイント上回っているが、他の観点は下回っている。特に、「社会的な思考・判断・表現」「社会的事象についての知識・理解」で９ポイント、9.9 ポイント全国平均正答率より低い。

ＩＣＴ機器を活用して、児童に興味・関心をもたせるような教材を作成し、指導の充実を図る。

各学年でグラフなどの資料や地図を読み取る活動を授業で多く取り入れる。児童個々に課題をもたせ解決する問題解決的な学習を行い、社会的な見方や考え方を身に付けさせるようにする。

特に、６年では、地図や地球儀、統計年表など各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付け、それをもとに考えたことを説明したり議論したりする活動を充実させることで、社会的な思考力・判断力・表現力など能力を養うようにする。「工業生産」の領域では５年の段階で単元末に確認テストや「ふりかえりシート」を使って問題に取り組ませ学習の習熟を図る。

算数

○全学年・全観点で全国平均正答率を上回った。特に、「数学的な考え方」の観点では、２年 12.4 ポイント、３年 6.5 ポイント、４年 9.1 ポイント、５年 8.5 ポイント、６年 5.6 ポイントと全学年５ポイント以上全学年、全国平均正答率上回っている。

○「数量や図形についての技能」の観点でも、２年 5.5、３年 5.5、４年 4.7、５年 9.9、６年 3 ポイントと３ポイント以上全学年、全国平均正答率を上回っている。

▼「算数への関心・意欲・態度」の観点においては、４年で 1.1 ポイント、６年で 0.4 ポイント上回っているが、全国平均正答率より３ポイント以上上回ることができるように指導していく。

「算数への関心・意欲・態度」を高め、自分の考えを表現する力を身に付けさせるために、具体物を操作したり日常の事象を観察したり、児童にとって身近な算数の問題を解決したりするなどの具体的な体験活動を積極的に学習に取り入れていく。

ＩＣＴ機器を積極的に活用することで、基礎的・基本的な事項を確実に身に付けさせるようにする。また、子どもたち同士の学び合い活動を取り入れ「数学的な考え方」及び「数量や図形についての技能」を高めていく。

また、授業の終末には振り返りやまとめの場面を取り入れ、教科書の確認問題や「ふりかえりシート」を使って学習の振り返りを丁寧に行い、学習内容の定着を図る。

理科

○４年では「自然事象への関心・意欲・態度」、「科学的な思考・表現」、「自然事象についての知識・理解」の観点で、それぞれ 4.6 ポイント、5.6 ポイント、8.2 ポイント全国平均正答率を上回っている。

▼５年では、「自然事象への関心・意欲・態度」が 7.4 ポイント、「自然事象への知識・理解が 3.3 ポイント全国平均正答率を下回っている。

▼６年では全観点で全国平均正答率を大きく下回っている。特に「自然事象への関心・意欲・態度」では、20.9 ポイント、「科学的な思考・表現」では 12.9 ポイント、「自然事象についての知識・理解」では 14.6 ポイント下回っており課題である。

問題を見いだし、予想や仮説、観察・実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動を重視し、体験的な活動をもとに知識・技能の習得を目指していく。個々の児童が自分の予想に基づく観察・実験を行い、結果に対する自分の考えを説明できるようにする。

個々の児童が主体的に問題解決の活動を行うことで「自然事象への関心・意欲・態度」を高める。観察・実験を通して自然事象を体験的に学ばせたり科学的に問題を解決しようとする活動を取り入れたりし、日常生活や他教科等との関連を図った学習活動を充実させていく。

「生命・地球（植物の成長、顕微鏡の使い方）」の領域では、「ふりかえりシート」を使って授業で問題を行ったり、計画的に家庭学習として取り組ませたりし学習内容の定着を図っていく。

２　学習指導の重点（学力・体力の向上をめざす）

〇全ての子どもが熱中する授業、学ぶ楽しさ・わかる喜びが味わえる授業を創造する

・教職員は、意図的・計画的な指導を行う。

・教職員は、教材研究に努める。

・教えるべきことは教え、育てるべきことは育てる授業に努める。

・児童がわかる授業、成就感を味わえる授業の構築に努める。

・「中川学習スタンダード」に基づいた学習スタイルを継続していき、学習規律の徹底に努める。

・各教科等において、ＩＣＴ機器を活用した教材の工夫や指導の充実・改善を図る。

・体育科の指導においては、墨田区教育委員会研究協力校としての機会を生かし、教員の授業力を伸ばし、一層の指導の充実に努め、児童の体力向上を図る。

３ 学力向上のための主な取り組み

全教職員が研究授業を行い、授業改善を通して日々の授業の充実を図り、全教員が一体となって児童一人一人の学力向上に向けて取り組んでいく。

学力調査や確認テスト（ふりかえりシート）などで児童一人一人の学力の状況を把握し、昨年度や前回と比べ、どのくらい伸びたか、どの程度定着できたかを基準に全教員で全児童の学力の定着及び伸長を図っていく。

（１）基礎的・基本的な学習内容の定着

①基礎学力の向上を目指して本校独自の校内学習状況調査を年３回（４月・９月・２月）実施する。区学力調査の結果を受けて、国語・算数を中心に課題の見られた問題や領域について学校独自の調査問題を作成し、基礎・基本の定着に向けた学力調査を実施し、定着度を検証していく。

②全国学力状況調査（６年）、区学習状況調査（２～６年）東京都児童の学力向上を図るための調査（５年）の事前指導をする。前学年の学習内容や調査問題の復習や学力調査の受け方・心構えなどを指導する。

③朝学習の時間（８：２０～８：３５）に、計算タイム（計算・文章問題プリント）、漢字タイム（漢字プリント）、読書タイムを毎週設定し計画的に実施する。

漢字・算数（計算）プリントについては、「ふりかえりシート」「東京ベーシックドリル」等を活用し、前期は前学年の内容、後期は当該学年の内容で計画的に取り組む。

④算数習熟度別指導の充実

単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態を応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。特に、ＤＥ層の児童に対しては、毎時間学習支援指導員と連携し個に応じた学習支援したＴＴ指導を行う。また、授業等で確認問題や「ふりかえりシート」等を繰り返し行うことで基礎学力の定着を図る。

⑤基礎学力補充を重点とした放課後補充学習教室「中川きっずワーク」を実施する。学習支援指導員を活用して、基礎学習力の定着、学習内容の補充指導が必要な児童を対象に、週３回を実施し、国語・算数を中心に基礎・基本の定着を図る。また、夏季休業中（７・８月）には補充学習教室を７日間実施し、ＤＥ層の児童の学力向上を図る。

（２）思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫

①校内学習状況アンケート（意識調査）を年２回（４月と２月）実施し、児童の学習への取り組み状況を把握するとともに、それに基づいた授業改善を図っていく。

②墨田区教育委員会研究協力校として２年間の研究してきた算数科における問題（課題）解決型の学習を社会科・理科の学習にも積極的に取り入れ、学び合いを中心とした授業を行っていく。

③理科の「観察・実験」の補助としてすみだＳＳＴを活用しＴＴ指導を行うことで、観察・実験を充実させる。観察・実験を通して自然の事物・現象について実感を伴った理解を重視し、知識・理解に関連付けた指導を行い、科学的な思考力・表現力を育成する。さらに、理科室の器具や準備室などの整備を行い、学級担任が観察・実験がしやすい環境をつくり、授業の充実を図っていく。

④読書月間を年２回（６月・１１月）実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。

また、ﾃｨｰﾁｬｰｽﾞﾌﾞｯｸﾄｰｸ、レインボー班による読み聞かせや図書ボランティアによる読み聞かせ（月２回）を行い、読書に対する興味をもたせ「読み取る力」を育成する。

⑤タブレットＰＣ、電子黒板、デジタル教科書などで動画や効果的に活用し、学習内容をわかりやすく指導する。

⑥各教科の単元や領域の学習内容にそって、外部講師としてゲストティチャーや学校支援ネットワーク事業を利用した出前授業などを実施する。講師から経験や体験に基づいた専門的な話を聞くことにより児童の学習への興味・関心を高めるようにする。

（３）家庭学習習慣の確立

①「中川家庭学習週間」を年３回（４月・９月・１月）実施する。児童に「家庭学習カード」を配布し、家庭での学習内容や時間等を記録し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。保護者にチェックしてもらうことにより、保護者に対しても家庭学習への意識をもたせ、児童と一緒に取り組むことで家庭での学習習慣を定着させる。

②その時間の学習内容については、宿題として単元の確認問題、ふりかえりシート等を繰り返し活用し定着を図る。翌日には必ず内容を確認し、学習内容の習熟ができていない児童については、個別に指導していく。国語・算数を中心に特に５・６年に関しては、社会・理科を含め計画的に実施する。

③生活リズム確認旬間」を年３回（４月・９月・１月）設定し、「早寝、早起き、朝ごはん」を家庭で徹底させることで、家庭での生活リズムを整え学習に向き合う態度を育てる。

（４）校内研究を通して

①体力向上が学力向上につながるという意識のもと、研究主題「『できた　楽しい　もっとやりたい』体育学習～課題を見付け、自分の考えをよりよく表現し、すすんで活動できる児童の育成～」に基づいて、全教員が授業研究を行い、教師一人一人の授業力を高め、児童の体力の向上を図る。

　東京都統一体力テスト、意識調査をもとに、児童の体力と運動に対する実態を分析し、運動する楽しさを味わい、児童一人一人が主体的に運動に取り組む授業を目指し、体力の向上に資するようにする。

②「中川算数塾」を発足し、全教員の授業力の向上を図る。平成２７・２８年度墨田区教育委員会研究協力校として２年間の研究してきた算数科における問題解決型の学習を全教職員で学ぶ機会を設ける。学び合いをもとにした授業を行うことで、児童に思考力・判断力・表現力等「考える力」を身に付けさせるようにする